

令和5年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 112

千葉県立木更津高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

次の全てを満たす生徒

ア 学習成績が優秀で、自ら課題を見だし主体的に学習に取り組み、その成果が期待できる資質のある者

イ 高校生活全般にわたって積極的に取り組み、自らを高めようとする意欲のある者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査（作文）	字数：500字以上600字以内 検査時間：50分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	40点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書〔135点満点〕

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において欠席が20日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が1つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	実用英語技能検定準2級以上など、特に優れた記録については、総合的に判定する際の参考とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査（作文）〔10点満点〕

2名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（満たしている）・b（満たしていない）の2段階で評価する。2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（a a～b b）で得点化する。b bの組合せがあるものは、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 字数	指定された字数に対して過不足がない。
イ 内容	与えられたテーマに対して内容が適切である。

#### 4 選抜方法

##### (1) 選抜の方法

ア 「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（作文）の得点」を全て合計した「総得点A」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、次のパーセントまでを入学許可候補者とする。

- ① 受検者が募集人員以内のときは、受検者数の80パーセント
- ② 受検者が募集人員を超えるときは、募集人員の80パーセント

<ア：総得点Aの満点の内訳>

学力検査 の得点	調査書の得点	学校設定検査の得点	総得点A
	評定 (K=1)	作文	
500点	135点	10点	645点

イ 上記アで決まらなかった者及び理数科の1段階目で決まらなかった者のうち本学科を第2希望としている者については、「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（作文）の得点」に本校の定める係数（ $k1=1$ 、 $k3=1$ 、 $k4=1.5$ ）を乗じて算出した得点を全て合計した「総得点B」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、理数科の2段階目の選抜と並行して募集人員の20パーセントまでを入学許可候補者とする。その際、本学科・理数科ともに入学許可候補者となる可能性のある場合は、第1希望の学科での入学許可候補者とする。

なお、ここまでの選抜で募集人員に満たない場合は、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

<イ：総得点Bの満点の内訳>

学力検査 の得点 ( $k4=1.5$ )	調査書の得点	学校設定検査の得点	総得点B
	評定 (K=1、 $k1=1$ )	作文 ( $k3=1$ )	
750点	135点	10点	895点

※ $k1$ ：アの「調査書の各教科の評定の全学年の合計値にKを乗じた数値」に乗じる係数

※ $k3$ ：アの「学校設定検査の得点」に乗じる係数

※ $k4$ ：アの「学力検査の得点」に乗じる係数

##### (2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

#### 5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面談を行う。